

未来を切りひらくために

明けましておめでとうございます。皆様にとりまして、この一年が優しさと喜びに満ちる幸多き年となりますように、心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は大変大きな影響を受けました。一日も早い終息を切に願いながら、市民の暮らしと地域経済を守る取り組みを全力で進めているところであります。

一方、大きな変化や困難の中にあっても、まちの活性化に向けた取り組みにも力を注いでいます。昨秋、「小林古径記念美術館」が開館し、このまちの芸術文化をいかしたまちづくりに向けた令和3年は、旧今井染物屋に雪国高田の風土産業であったバテンレースを基軸とした工房を常設するとともに、旧師団長官舎では民間事業者によるレストランとしての活用を進め、賑わい

の創出を図ってまいります。

上越市が誕生してから50年を迎え、そして14市町村の合併から16年目となります。私は、このふるさとを確実に次の世代に引き継いでいくために、市民の皆様とともに、上越市にとって何が最善なのかを考え、そして未来を切りひらくために行動する、そうした取り組みをさらに進める一年にしたいと思っております。この新しい年、勇気を持って、挑戦してまいります。

市民の皆様には、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます、新年のご挨拶いたします。



上越市長
村山 秀幸

令和3年

新年のご挨拶

困難な時代に立ち向かう市議会に

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に輝く新年を迎えられましたことお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、国から緊急事態宣言が発出されるなど、まさに困難ともいえるべき年でありました。

市議会においても、改選後早々に新型コロナウイルス調査対策特別委員会と災害対策特別委員会を立ち上げ、市長に対し、固定費の負担軽減への支援や各種給付金・助成金の増額・期間延長、避難所の体制整備などの緊急提言を行いました。

また、急激な人口減少社会への対策は重要かつ喫緊の課題であるとの認識から、人口減少対策特別委員会を9月に立ち上げ、具体的な政策提言につなげるべく調査研究を進めています。かつて、鍋底不況といわれ日本全体

が空前の不況であった時代に、パナソニックの創業者である松下幸之助氏は、「困難こそ発展の好機」という言葉を残しています。氏は、思いを新たに、決意固く歩めば、困難がかえって飛躍の土台石となるとの信念を持って事にあたられました。

多くの課題を抱える今、私たち市議会はこのような思いを胸に、市民の皆様への負託に応え、その責務を果たしていきたいと考えております。

この一年が、市民の皆様にとりまして、健やかで幸せに満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げます。



上越市議会議長
飯塚 義隆